

# Magic eBusiness Platform Ver9.30J SP5x による Pervasive.SQL V8 の動作確認レポート

マジックソフトウェア・ジャパン株式会社  
カスタマーサービス本部 開発部  
2004/03/24

## はじめに

このドキュメントは、Magic eBusiness Platform（以下は Magic と表記）Ver9.30J SP5 / SP5a による Pervasive.SQL V8 の動作確認テストの結果について記述したものです。

## 対象

Magic Ver9.30J SP5 / SP5a 3

Magic Ver9.30J Pervasive データベースゲートウェイ : MGpv2k.dll (Ver. 9.3-4)

## 動作環境

### クライアント

マシン : DELL Dimension 8250

CPU : Pentium4 2.40 GHz

メモリ : 512MB

OS : Windows 2000 Professional

クライアントモジュール : Pervasive.SQL V8 Workgroup / Server Pack クライアント

Magic Ver9.30J SP5 / SP5a 3 + MGpv2k.dll (Version 9.3-4)

### サーバ

マシン : DELL PowerEdge 1600SC

CPU : Xeon 2.4 × 2

メモリ : 2GB

OS : Windows 2000 Server

Pervasive SQL.V8 Server Pack for Windows NT

Magic Ver9.30J SP5 / SP5a 3 + MGpv2k.dll (Version 9.3-4)

## 検証結果

Pervasive 2000i で動作可能なアプリケーションで検証した結果、以下の「注意事項」、および README に記載された制限事項を除き、その互換レベルにおきまして、正常に動作することを確認いたしました。

## 注意事項

- ・ Pervasive.SQL V8 の設定

Pervasive.SQL V8 固有の設定に関して、Pervasive Control Center の以下の設定で動作を確認いたしました。

- ▶設定 サーバ データ整合性 トランザクション一貫性保守 On
- ▶設定 サーバ データ整合性 オペレーションバンドル制限 1
- ▶設定 サーバ データ整合性 起動時間制限 1 ( 以上、README 参照)
- ▶設定 クライアント パフォーマンスチューニング キャッシュエンジンの使用 Off ( 後述)

その他のパラメータは、デフォルト値を設定。

#### ・リモートエンジンにアクセスする場合の注意

リモートのマシンで実行されている Pervasive SQL V8 エンジンを使用して、遅延トランザクションのタスクを実行した場合、不定期に以下のようなメッセージが出て、処理が取消されることがあります。

- ▶「処理に失敗しました。他のユーザがレコードを更新しました。(ファイル名)」
- ▶「インデックスが重複しています。(ファイル名)」

この問題は、Pervasive.SQL V8 のクライアントキャッシュを無効にすることにより、回避されることを確認しております。

設定 クライアント パフォーマンスチューニング キャッシュエンジンの使用を Off に設定。

**追記事項 (2004 年 3 月 24 日追記):**運用時には上記設定のうち「オペレーションバンドル制限」および「起動時間制限」はデフォルト設定のままご利用ください。

動作確認テスト実施時には、上記のように「オペレーションバンドル制限」および「起動時間制限」をいずれも「1」に設定して確認を行いました が、これは、古い Btrieve バージョン(Btrieve 6.x) においてロック解除のタイミングなどの理由によりこの設定を推奨していたためです。しかし

Pervasive.SQL V8 (SP1)ではこの問題が起こらず、更新の多い環境では返ってパフォーマンス低下につながる可能性があるため、デフォルト値のままでのご利用を推奨いたします。

なお、「トランザクション一貫性保守」の設定は Pervasive.SQL V8 (SP1)においても On にしてご利用ください。

以上